

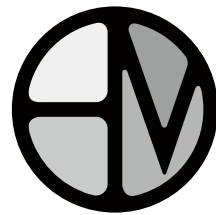
IZA
CORPORATION
Company to create a beauty

トリプル・プロテクト 発売記念

国際オーソモレキュラー医学会会長

柳澤厚生先生 特別講演

Report 2022年4月13日開催



Orthomolecular
Beauty LABO

IZA
CORPORATION
Company to create a beauty

株式会社アイザ

茨城県稲敷市羽賀 1795-2

TEL: 029-892-1247

MAIL: info@izanet.co.jp

はじめに

私たちはお医者様に診療はしてもらえますが、お医者様が世の中の治療法に対して本当はどんな考えを持たれているのか？先生方の個人的な意見や、先生方のうちわ話などを聞く機会はなかなかありません。それも、大きな医学会の会長のお話となると一生耳にすることは無いかもしれません。

この度は、今世界中に混乱と恐怖を巻き起こし、精神的、経済的ダメージを与え続けているウイルスによる感染症に対して、私たちはどのような認識をもって、健康を維持することが望ましいのか？国際オーソモレキュラー医学会会長を務められている柳澤厚生先生の特別講演レポートを作成いたしました。

人の体は食べた物でできている。

これが栄養学の真理です。

NEWS で流れる情報を鵜呑みにして全てその通りに行うことで安心。これで間違いのない、大丈夫というお考えの方は本レポートを読まれて混乱をするかも知れませんので、お読みになることをお勧めするのは非常に難しい心境です。

ただ、ウイルス対策に対して疑問を抱いている方や、不安を抱かれている方にとっては、本レポートは何をすべきかの判断基準となる場合がありますので、お時間があれば一読をお勧めいたします。

また、お子様やお孫さんに対しての感染対策や、感染後やワクチンを打った後の体調不良に対する改善方法なども柳澤先生が述べられておりますので、参考になれば幸いです。

国際オーソモレキュラー医学会会長 柳澤厚生先生特別講演レポート

■柳澤先生プロフィール【略歴】

1976年 杏林大学医学部卒

1980年 杏林大学大学院修了。医学博士。

1985年 米国ジェファーソン医科大学リサーチフェロー

1995年 杏林大学医学部内科助教授

2000年 杏林大学保健学部救急救命学科教授

2008年 国際統合医療教育センター所長

2009年 第10回国際統合医学会会長

2012年 国際オーソモレキュラー医学会会長(カナダ)

2011年 国際オーソモレキュラー医学会殿堂入り(カナダ)

2014年 アントワヌ・ベシャン賞(フランス)、パールメーカー賞(アメリカ)

2015年 事業構想大学院大学研究所客員教授

2016年 世界神経療法会議最優秀アカデミー会員(エクアドル)

2018年 国際オーソモレキュラー医学会第47回世界大会(東京開催)会長



【所属学会】

一般社団法人 日本オーソモレキュラー医学会(代表理事)

一般社団法人 日本メディカルオーガニック協会(代表理事)

一般社団法人 日本ウェルビーイング医学協会(代表理事)

日本内科学会内科認定医

アメリカ心臓病学会特別正会員(FACC)

米国オゾン療法学会会員

日本抗加齢医学会会員

柳澤先生はアンチエイジングや栄養療法に関しては世界的に権威のある先生になります。本レポートは、2022年3月に発売した「トリプルプロテクト」サプリメントの基本設計をされた柳澤先生の講演になります。

3つの栄養素

関川さんと一緒に色々なことを検討して開発に入り、最終的に非常に自信を持ってお勧めできるいいものが出来ました。このトリプルプロテクトというネーミング、まさに3つの栄養素で体を守る素晴らしいネーミングですね。ロゴのCはビタミンC、DはビタミンD、そしてZは何かというと、亜鉛のことを言いまして、Zinc(ジンク)と言います。この頭文字のZがロゴマークのC、D、Zというわけで、この3つの栄養素で体を守ろうというのがトリプルプロテクトのコンセプトです。

免疫力を高める栄養学

さて、ここで一つ話題を変えます。よく、免疫力をアップするには、免疫力を上げるには、免疫力が下がっているなどの話題がお客様との間でもでるかと思えます。免疫力ということに関しては非常に奥が深く、複雑で一言で説明はできませんが、私たちオーソモレキュラー医学会では、免疫力をアップするためには?といった時に次の様に説明しています。

免疫力を高めるにはまずは、「運動」ですね。運動は免疫力を高めてくれます。そして「睡眠」で、特に夜の間に睡眠を十分にとることで、体は復活していきます。そして、ストレスがない「リラックス」している状態。これも免疫力を非常に高めてくれます。そして大事なのが、「食事・栄養」ですね。そして、この食事の中で「ビタミンC」「ビタミンD」「亜鉛」で免疫力をアップしようという話になります。

ビタミンC、D、亜鉛とは?

そもそも、ビタミンC、D、亜鉛が欠乏すると、免疫力アップができないわけです。ビタミンC、D、亜鉛が直接免疫力をアップするという考えよりも、この栄養素が足りないために皆さんの免疫力が高まらない。特に日本人はビタミンC、D、亜鉛が非常に不足しています。イメージで言えばフェラーリに対して、十分な整備をしていないと、十分なパフォーマンスが発揮できません。そこに、純正のオイルを足したり、チューナップすることによって本来のフェラーリの性能が発揮されるわけです。ビタミンC、D、亜鉛が不足すると免疫力の機能が非常に落ちてしまいます。そういうことで、『新型コロナウイルスはビタミンC、D、亜鉛で克服できる!』専門医の栄養術として主婦の友社から出ました。

そういうことで、『新型コロナウイルスはビタミンC、D、亜鉛で克服できる!』専門医の栄養術として主婦の友社から出ました。これをみるとたかがビタミンC、D、亜鉛で何ができるのだろうか?と思う方が多いと思います。これについてお話を進めてまいりましょう・・・。

ビタミンC、D、亜鉛の働きに関する医学的エビデンス

この様な論文が出ております。これは、ブラジルからの論文です。

「Zinc, Vitamin D and Vitamin C: Perspectives for COVID-19 With a Focus on Physical Tissue Barrier Integrity (新型コロナウイルスに対する組織バリア機能における亜鉛、ビタミンD、ビタミンCの役割)」という論文です。



英語で表現するならば「put CD-Zinc for Covid-19」新型コロナウイルスにビタミンC、D、亜鉛をとというタイトルです。

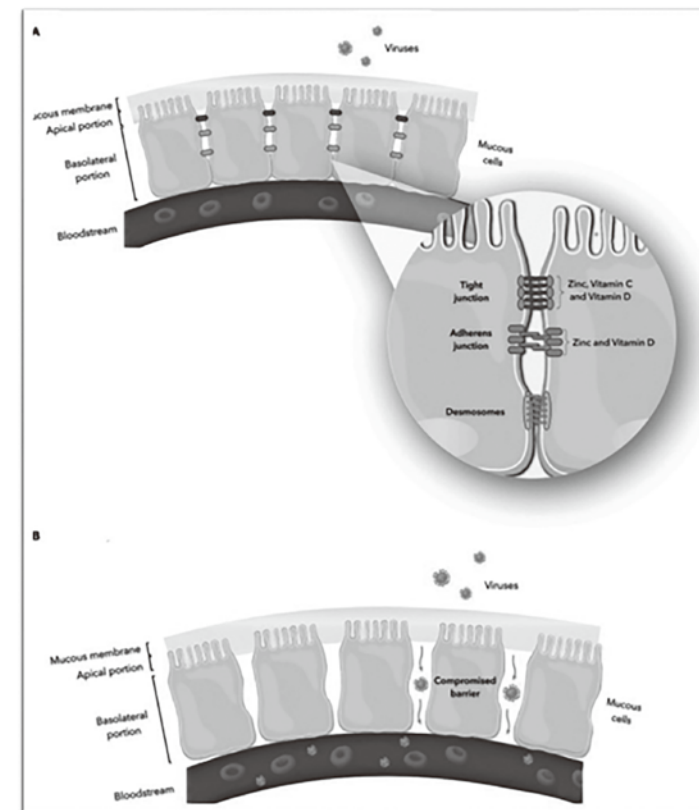
ここで見られるのは正常な細胞、体の粘膜、軌道の粘膜や、消化管の粘膜、ですけれども、この粘膜のところの細胞です。細胞同士はピタッとくっついていて、色々なものが体内に入らないように、必要なものだけ通すようにできています。

タイトジャンクション（密着結合）、アドヘレンスジャンクション（接着結合）、デスモゾーム（接着結合）と名前がついていて、3つの接合部、タイトジャンクション（密着結合）にはビタミンC、ビタミンD、亜鉛が関わってきます。

ドヘレンスジャンクション（接着結合）にはビタミンD、亜鉛が関わってきます。これが不足すると、細胞同志の間が離れてしまってコロナウイルス、インフルエンザウイルス、細菌、花粉、PM25などが腸管を通して入ってしまう。あるいは肺から入ってしまいます。

ですので、ここでビタミンC、ビタミンD、亜鉛が十分にあることによってそれらにかかり難くなる。そもそもが、予防できるということになるわけです。

一言でいうと、**ビタミンC、ビタミンD、亜鉛が欠乏すると防御バリアが働かなくなり、ウイルスに感染しやすくなる**わけです。



参照：https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/33365326/

Review > Front Nutr. 2020 Dec 7;7:606398. doi: 10.3389/fnut.2020.606398. eCollection 2020.

Zinc, Vitamin D and Vitamin C: Perspectives for COVID-19 With a Focus on Physical Tissue Barrier Integrity

José João Name¹, Ana Carolina Remondi Souza¹, Andrea Rodrigues Vasconcelos², Pietra Sacramento Prado¹, Carolina Parga Martins Pereira¹

Affiliations + expand

PMID: 33365326 PMCID: PMC7750357 DOI: 10.3389/fnut.2020.606398

Free PMC article

参照：https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/33365326/

COVID-19と国際オーソモレキュラー医学会

このビタミンC、ビタミンD、亜鉛、これだけの作用ではありません。さて、少し面白いお話になります。新型コロナウイルスが現れたのが「COVID-19」と言われる2019年ですけれども、それが出てから一ヶ月も経たないうちに私が国際オーソモレキュラー医学会の栄養学の専門家48人を集めて、新型コロナウイルスを予防するためにはどういう栄養素が必要だろう？

ということを検討しました。

そして、最終的に私たちは傘下の学会、並びに世界中に配信したのは、2020年。日本ではまだダイヤモンドプリンセスの問題がまだ起きていなかった時です。



その時に出したのが、ビタミンC 3g/日、ビタミンD 2000IU/日、亜鉛 20mg/日、マグネシウム 400mg/日、セレン 100μg/日などを摂ることによって新型コロナウイルスを発症しにくくする。かつ、発症しても重症化しないようなサプリメントを提唱しました。

ビタミンC	3g/日
ビタミンD	2000IU/日
亜鉛	20mg/日
マグネシウム	400mg/日
セレン	100μg/日



この栄養素、特にビタミンC、ビタミンD、亜鉛はその後様々なところで研究され論文が出ていて、この説が正しかったことが後にわかってきました。私たちは過去の専門家の意見や、論文、培ってきた様々な財産を元にして、このシンプルなビタミンC、ビタミンD、亜鉛というものをオーソモレキュラー医学会ではコロナの発症予防や重症化予防のために必要であるとしたわけです。

細かく行きますと・・・

ビタミンCについてちょっと面白いお話をしましょう。

【チリのサンチャゴ市の大学生の合宿所での研究結果】

これは、1999年に出した論文です。

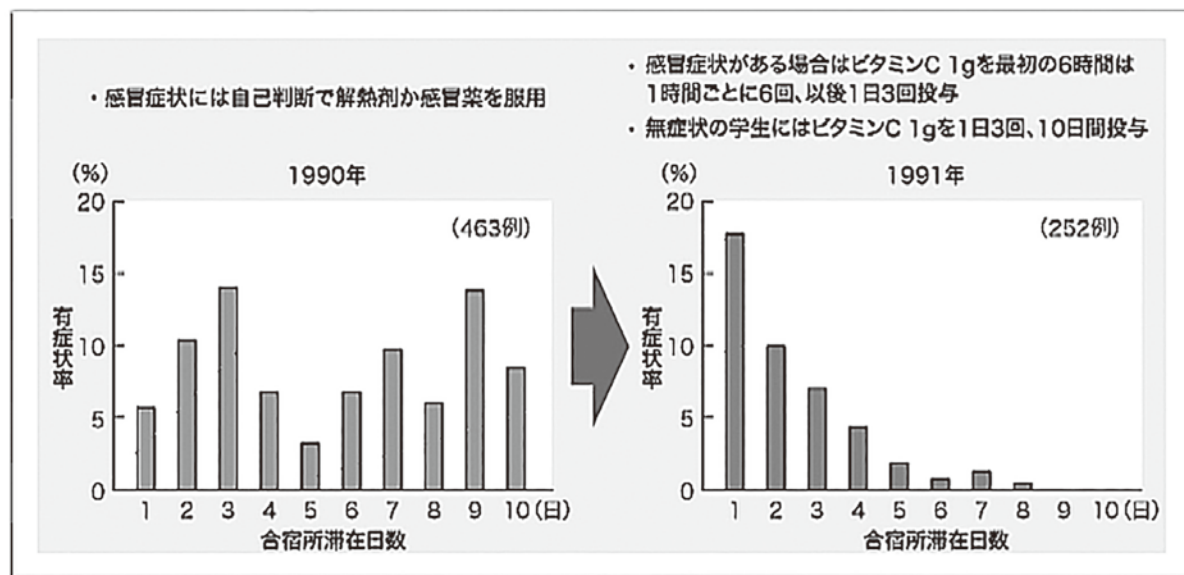
『ウイルス性呼吸器感染に対するビタミンCの予防、症状軽減効果』

これは、アメリカの研究集団がチリのサンチャゴ市の大学生の合宿所で、10日間の運動プログラムを行いました。ここには30人が入って10日間経つと全員が出ていく。空になった合宿所に50人入って10日間経つと出ていくという形になるわけです。

Z

この参加する学生の風邪症状に対し、ビタミンCの介入試験を実施しました。まずは、入ってくる学生が邪症状に自己判断風邪薬を服用しました。

1990年には463名が10日間のプログラムに参加しました。驚いたことに、10日間の風邪の発症率はバラバラにみえます。初期の段階では軽い症状から重い症状の人がいますが、終わりの頃は風邪症状がなかった人に風邪がうつされたようなデータに見えます。



参考：Gorton HC&J Manipul Physiol Therap 1999;22:530

翌年の1991年には252名の学生が参加しました。この時は風邪症状がある場合は、ビタミンC1gを1時間毎に6回、ですからその日は6g以後毎日3回(3g)で9日間投与しました。それだけではなく、症状の無い学生にはビタミンC1gを1日3回(3g)を毎日投与しました。結果は驚くことに、風邪症状の人数は日に日に減り9日、10日目には症状のある人が一人もいなくなりました。入ってきた時に症状があった人はどんどん良くなっていく。入ってきた時に症状がなかった人はうつされにくくなるわけです。こうなってくると、学校や家庭、従業員が毎日ビタミンCをとっていればどうなるかですね。お互いうつされあいが無くなるわけです。まして、コロナとかにかかった時の症状は軽くてすむわけです。これを理由に私たちはビタミンCを1日3g予防と治療を兼ねて摂ろうということに決めたわけです。

【ヘルシンキ大学公衆衛生学ハリ・ハミラ教授が出した論文】

ビタミンCの魅力はまだあります。これは、ヘルシンキ大学公衆衛生学ハリ・ハミラ教授が出した論文ですけれども、新型コロナウイルスに感染した時に、その人たちに毎日ビタミンCを1日8g投与しました。すると、何が起きたかという、治る速度が71%早くなりました。100%の症状が



60% (40%減少)になるまでの改善日数。平均9日から6日と3日間短縮しました。元のデータはアメリカのクリグランクリニックのデータですけれども、ビタミンCをコロナにかかった時にしっかり摂ることで症状は早く改善し、治癒が早まるということになります。

次にビタミンDについてです。

【ボストン大学の研究データ】

これはボストン大学の研究ですけれども、20万人の登録した患者さんの血液中のビタミンDの濃度が出ていました。新型コロナウイルスの陽性率を見ると欠乏している人は13%程度、一方、ビタミンDが十分な人はだいたい6%。要はビタミンDが十分にあることによってコロナに感染する確率が半分になります。よく新型コロナウイルスに感染するとサイトカインストーム(過剰な炎症反応)で亡くなるという話がありますが、ビタミンDはこのサイトカインストームを抑えてくれます。



【慶応義塾大学病院の研究データ】

では、皆さんはビタミン D の値はどのくらいだろうか？一人一人血液検査をすればわかることですが、こんな話があります。慶応義塾大学病院の女性勤務者 571 人に採血をして、ビタミン D を 2011 年 9 月に測定しました。ビタミン D は太陽に十分に当たることによって体で作ることが出来ます。

ですから、非常に安上がりなビタミンとも言えます。

毎日、冬場でしたら 30 分、夏ですと 15 分の日光浴をすることがいいんですけども、女性勤務者は、なんと正常だったのは約 30% 以下だったわけです。残りは低下から欠乏。これでは、コロナにかかりやすくなります。これは、どういうことが起きたかといえば、この女性たちは勤務していますから、日光にあたらぬ。太陽にあたらぬと言う時には日焼け止めをしっかりと塗っているわけですので、太陽にあたっててもビタミン D が作られ難いわけです。

ですので、このビタミン D を摂ることによって免疫力を高め、コロナにかかり難くなるということで、ほとんどの方にお勧めです。ビタミン D を摂りすぎても過剰になるということはありません。

次に亜鉛にいけます。

亜鉛は一見面白味のない普通のミネラルに思われがちですが、亜鉛はとても大事な働きをします。まず、コロナウイルスが入ってきた時に体の中に十分に亜鉛があると、コロナウイルスは複製が出来なくなります。

【ニューヨーク大学医学部の研究データ】

ニューヨーク大学医学部の発表ですけれども、新型コロナウイルス感染でニューヨーク私立病院へ入院し、クロロキンを投与した患者 3,473 人のうち、亜鉛を 50~100mg/ 日を投与した入院している患者の死亡率が 24% 減少した。すなわち、サイトカインストームを抑えてくれているわけですね。

【トランプ前大統領がコロナに感染した時にとられた処置】

さて、トランプ前大統領ですが、2020 年にコロナに感染しました。この時に主治医チームは何をやったかという、ビタミン D と亜鉛を処方しています。これは、アメリカでは非常に話題になりましたが、日本では話題にも上がりませんでした。

ホワイトハウスの主治医コンリー医師がメディアに向けたメモによれば、トランプ大統領は抗体カクテル治療を受け、その後は亜鉛、ビタミン D などを服用しています。ということが書いてあります。この医師団はビタミン D と亜鉛が大事であるということを知っていたのです。ビタミン D と亜鉛は、サイトカインストームを抑えてくれます。

コロナワクチンに関する情報



さて、ここで話題を変えます。

今度はワクチンについての話です。

Science という有名な科学誌があります。ここに今年(2022年)の1月20日に出た記事で、希にコロナ後遺症に似た症状がワクチン接種後に起きることがある。新型コロナの後遺症は、味覚障害、嗅覚障害、それから怠かったりと、色々な症状があります。それと同じような症状がワクチンを打った後に起きることがあるというものです。

【ワクチンの後遺症】

- 多彩な症状 ・倦怠感 / 慢性疲労 / ブレインフォグ / 脱毛 / 息切れ / 動悸 / うつ / 目眩
- 複雑な要因 ・血栓形成 / 難聴 / 心筋炎 / 免疫異常 / 神経機能異常

とありますが、国はワクチンの副反応、後遺症というものはほぼ無いと言っています。でも実は全ての情報が公開されていません。副作用はワクチンを打った直後から、あるいは一月後でも出ることがあります。今日、ちょうどワクチンに関する国の検討会が開かれていました。その検討会においてワクチンによって死亡したと報告されている数が1635人います。そのうち、因果関係無しというのが10人。残りの1,625人は因果関係不明で、因果関係有りとする症例はゼロ人。

死亡報告	1,635 人
因果関係無し	10 人
因果関係不明	1,625 人
因果関係有り	0 人

因果関係不明というのが非常にトリッキーですね。国が勧めているワクチンである以上、亡くなった方が因果関係有りとすると、当然賠償しなくてはならないと思いますが、**因果関係不明数がどんどん増えているのが現状ですが、因果関係不明のまま放置状態にしています。**ここが非常にトリッキーなところと言うか、

曖昧なところですね。この事例は、実際にワクチンを接種した81歳の方ですが、夕方くらいからどんどん手の皮膚が赤くなり、その後水疱になっていき、皮膚が破けるようになりました。この方は、県の担当に症状を訴えてもワクチンにこのような副作用は無いと言われ副反応に登録されていません。

【ワクチン慎重派】

ワクチンに対して私の立ち位置を説明しておきます。よく「反ワクチン派」という方がいますが、私は反ワクチン派ではありません。「ワクチン推進派」でもありません。いわゆる反ワクチン派のような絶対反対でもありません。ワクチン慎重派です。本当の意味で、ワクチンが必要なところに届けばいい。ただ、何がなんでも誰にでもワクチンを打つということに関しては慎重になっています。特に新しいワクチン、遺伝子治療薬ですけれども常にリスクとベネフィットを慎重に判断すべきであると考えています。

ですから私は常にワクチンのことに関しては慎重に判断します。私自身もワクチンを打っておりません。ワクチンを打たれた方もいると思いますが、何も無かったのであれば本当に良かったと思いますし、体調が悪くなった時には病院の方へ相談されると良いと思います。

例えば、最近は難聴の患者さんを診ることが多いです。『突発性難聴』です。

これはある時に耳鼻科の先生と話をしていて、これ多いよねって話が出た時に、たまたま側にいた私のスタッフがどんな話をしているのですか？と尋ねてきたので、ワクチンで突発性難聴になる人がいるよねって話をしていたよと答えると。そうなのですか、実は僕もワクチンを打ったのですけれども、その一週間後に突発性難聴で病院に行ったのです。今は治りましたけれども、それはワクチンのせいだったのですね。ということで、初めて副作用だと分かったわけです。

子どもへのワクチン接種について



さて、特に問題となっているのは5～11歳の子供へのワクチン接種です。12歳～18歳の子供に対してのワクチン接種も非常に懸念しています。小児における新型コロナウイルスについてですが、まずコロナにかかったらどう？という時に、基本発熱や咳など色々な症状は出ますけれども、健康な子供では、重症化したり、亡くなる方は基本的にはいません。

【子どもがワクチンを接種した時の副反応】

ところが、このような事例があります・・・中学1年生の男の子です。去年の9月にワクチンを打ちました。当日は眠気が酷くて、翌日から強烈なだるさが始まり、クラブ活度はおろか学校にも登校出来なくなりました。目の前がもやもやとして、集中力がなくなりました。昼間に楽な時もありましたが、夕方になると突然酷い倦怠感に襲われます。多分、脳炎等も起きていた可能性が考えられます。3つのクリニックや大学病院を受診しましたが原因はわかりません。ワクチン接種翌日から症状が出ていると訴えているにも関わらず、それまでは普通に運動をしていた少年を診察した医師たちは「ワクチンの副反応にこういう症状はない」と言って否定し、今でもワクチン副反応報告には登録されていません。同じような事例が沢山出ています。さて、ちょっと考えてみましょう。健康な子供にワクチンを摂取する意義は私は無いと思います。

なぜなら・・・

1. ワクチンはそもそも、その子が「感染による重症化と死亡を防ぐ」目的で接種します。
2. ところが、健康な子供が新型コロナに感染しても、無症状か軽症で治癒し、そして、死亡するリスクはほぼゼロです。

ですので、ワクチンを接種してまで予防する必要性が全く無いと思います。

重症化リスクの高い子供について接種することは、個別に判断が必要でしょう。糖尿病の気がある子供や、免疫の病気がある子供ですが、健康な子供に接種する意義なんてありません。



そして開発してから、まだ1年半（2022年4月時点）。どのような有害な影響があるか、あるいは無いのかが分かっていません。大人でさえ、1500人以上の方が亡くなっていて、ワクチンの影響かわからないという状況で、子供に打つのはどうなのか？と思っています。そして、お年寄りにワクチンを打つのと、これから成長していく子供にワクチンを打つのでは安全性は別です。

高齢者に打ってこうだからと、そのまま子供にできるというのは間違いです。何故なら、子供への安全性というものは高齢者よりも何倍にも遥かに厳しくすべきです。これから成長し、子供を産む将来のある子供にワクチンを打つということは、絶対にしっかりと守らなければならないのです。

ワクチン接種による後遺症医のケア方法



そして、本当の意味で長期の安全性の確立には数年以上が必要です。そもそも、風邪と同じようなコロナに対して、こういうリスクを負うワクチンを打つべきでは無いと考えます。そして、メリットが無いですね。予防接種はリスクを上回る利益が必要です。子供がワクチンを打つことによって、どのような利益があるか

というと、全く無いと思います。そして、子供へのリスクは極力無くさなければいけません。大人とは違います。しかし、ワクチンが子供に利益をもたらすとは私は思えません。何故なら、子供は重症化しないからです。

【医師、歯科医師の健康な子供に対する意識調査】

日本オーソモレキュラー医学会は、健康な子供に対するワクチン接種に対して、医師、歯科医師の意識調査をしました。5歳～11歳のお子様や、お孫さんがいらっしゃいますか？と聞いたところ、168人/535人の方が5歳～11歳のお子様や、お孫さんがいるとの回答がありました。では、その5歳～11歳のお子様や、お孫さんにあなたはワクチンを接種しますか？という質問に対して、接種すると答えた医師がたった5.4%で、**90%以上の医師や歯科医師が接種させないか、あるいは少し様子を見てからする**という判断でした。健康に対して非常に敏感になっている医師、歯科医師でさえワクチンに関しては非常に懸念しているということで、懸念が無くならないければワクチンを打つのは非常に怖いかなと思います。

長期安全性が確立されるまでは、未来を託す子供達にワクチンを接種すべきではないというのが私の考えで、日本オーソモレキュラー医学会もこの方針です。

さて、子供と同時にワクチン後遺症の治療法についてです。ワクチンの後遺症は様々です。治療としては、よく話題に出てきます「イベルメクチン」イベルメクチンはコロナの治療薬として使用されていますが、ワクチンの後遺症に非常に良く効くことがあります。その他、グルタチオン点滴、マイヤーズカクテル、高濃度ビタミンC点滴、それと同時に基本的にはビタミンC、D、亜鉛、マグネシウム等、特にトリプルプロテクトのC、D、亜鉛は世界中に後遺症に対するプログラムがありますが、C、D、亜鉛は必ず入っています。ここで、皆様にメモができたと思います。もし、あなたや家族の方が、しょうがないワクチン打たなければ会社をクビになる。そういう方がいた時に、ワクチンを打つ前にすること。接種する2週間前よりビタミンC、D、亜鉛などを十分に摂取してください。是非トリプルプロテクトを摂取してください。そして、接種直前にビタミンC8gの摂取、またはビタミンC点滴125g。トリプルプロテクトのビタミンCで考えれば8包程度。

【ワクチン接種者と自然感染者のその後の感染率データ】

大事なものは自然に感染した時の免疫力だと思っています。これはイスラエルの研究です。2021年1月～2月に新型コロナに感染、あるいはワクチンを接種した人に対して、その半年後の6月1日～8月14日の2カ月間にデルタ株にブレイクスルー感染した人を検討しました。普通に感染し抗体ができて、またブレイクスルー感染した人。ワクチンによって抗体を作って、ブレイクスルー感染した人。驚くべき結果が出ました。**ワクチン接種者は自然感染既往者と比べて、ブレイクスルー感染リスクが13倍と高かったのです**。半年経つと抗体がどんどん減ってしまう。素晴らしいのが、人間が自然に感染して出来た抗体の量が全然違うんです。

【国際オーソモレキュラー医学会 公式書簡】

私が会長を務める国際オーソモレキュラー医学会では、公式書簡が出ています。『健康なコミュニティにおける集団免疫の獲得』ということで、ISOM会長柳澤厚生(日本)、ISOM前会長 ガトー・シュイットメーカー(オランダ)、ISOM事務局長 スティーブン・カーターの連盟で世界中に配信しております。新型コロナウイルスが地球上から消えることはありません。戦いは長期化し、最後は新型コロナウイルスと共存する時代を迎えます。そして私たちは「健康なコミュニティにおける集団免疫の獲得」を目指します。

これが人類の進むべき道です。

いわゆるゼロコロナなんて考えません。ライフスタイルを見直し、最適な食事、運動、睡眠に加えて、良好なメンタルヘルス、ウイルス感染を防ぐ必要な栄養素（ビタミン C、ビタミン D、亜鉛など）の摂取により、人々は健康的な免疫システムを獲得します。これらの人々はコロナに感染しても軽い症状でしょう。健康的な免疫を獲得した人々が、免疫力が低い高齢者や病人を囲んで保護すること、これが

「健康的なコミュニティにおける集団免疫の獲得」です。

この戦略はすぐに始められます。何よりも、ワクチンや抗ウイルス薬よりも安全で効果的と考えています。リスクのあるワクチンを大人が接種して、社会と子供を守るというなら理解できます。でも、今の政治のリスクのあるワクチンを子供に接種して社会を守ろうというのは私にはとても理解ができません。大人が盾となって子供を守り、健やかに育てることが、社会の本来の姿あると、このように私は考えています。



まとめ



日本オーソモレキュラー医学会推奨

免疫をアップするには運動、睡眠、ストレスがなくリラックス、そして食事と栄養です。それが、特にビタミン C、ビタミン D、亜鉛です。トリプルプロテクトは私が代表理事をしています、日本オーソモレキュラー医学会推奨商品となって、認証マークがついています。中には1日2袋でビタミン C2g/日、ビタミンD2000IU/日、亜鉛20mg/日、銅2mg/日を摂ることができます。トリプルプロテクトの基本設計のこだわりは・・・漬物用に大量に作られている中国製のビタミン C を採用する日本製が多い中で、治療用で使われる高価なイギリス製のビタミン C を

採用。ビタミン D は信頼性の高いスイス製を採用しています。最後に亜鉛は20mg 摂るようになっていますが、亜鉛を摂ると銅の吸収が低下します。銅の欠乏は色々な問題を起こしますので、10:1 の割合で銅を追加しております。これがいわゆるプロフェッショナルな処方となります。この様な設計をしているサプリメントは殆どお目にかかることはありません。また、カプセルですが、ビタミン C は光に弱いのでキャラメル色素で遮光をしています。それらを更に、アルミの袋で二重遮光にしています。飲み方ですが

(小児は大人の体重50Kgから換算)

普段の免疫アップ(コロナ予防)は、1回1袋 1日2回 合計2袋

風邪・インフルエンザにかかったら、1回2袋 1日2回 合計4袋

コロナに感染したら、1回2袋 1日3回 合計6袋

ビタミン C で言えば6g 摂れます。アメリカでは8g 摂ることによって治る速度が速くなるというデータが出ていますが、日本人は6g で十分です。トリプルプロテクトはビタミン C とビタミン D と亜鉛(Zinc (ジンク))です。このトリプルプロテクトは関川さんと開発しましたけれども、そのほか C、D、亜鉛は鬱を治すとか色々な広い作用があります。

是非これを、皆様に広めてもらいたい。

お客様や家族の健康を守っていただきたい。

この様に考えております。

Q & A

Q1 セレンやマグネシウムはトリプルプロテクトには何故配合しなかったのでしょうか？

A1 セレンですが、セレンは面白いもので、不足していると例えば、エボラ出血熱が発症した西アフリカ、新型コロナが発症した中国の武漢などの土地はセレンが少ないことがわかっています。セレンが少ないと何が起きるかという、細胞の変異が起きてしまったりします。さて、セレンに関して日本人は比較的満足しています。そういう意味で言えば多分食事をとることで十分足りると思います。さて、マグネシウム。いい質問だと思います。マグネシウムは足りている方とそうでない方が分かれています。マグネシウム・・・例えば、一つの目安として夜足がつるような方、このような方はマグネシウムのサプリメントを摂って下さい。マグネシウムのサプリメントを摂るとなると、200mg、400mgm とかですね、非常にカプセル数が多くなってしまいます。人によっては便が柔らかくなってしまいう方がいますので、今私が勧めているのは絶対摂ってはいけないのは、酸化マグネシウム。今便秘にどうのこうのと TVなどで宣伝していますが、酸化マグネシウムは体に吸収しないので下痢をしてしまいます。ですので、それ以外のマグネシウムという、クエン酸マグネシウムなどマグネシウムの補給を目的としたサプリメントを摂ってください。足がつるという方は絶対的にマグネシウムを摂取するタイミングです。普段からマグネシウムは摂っていただいても問題ありません。

Q2 普段からトリプルプロテクトを摂取することでコロナ感染以外に効果はありますか？

A2 ビタミン C によって普段から摂ることで、肌がキレイになります。ビタミン D については、「サーファーに花粉症はいない」このような話があります。ビタミン D が不足してくると免疫が弱くなって、花粉症を起こしやすい。でも、サーファーは常に日に当たっているのでビタミン D が非常に多くなっていくことですので、花粉症やがんの予防にも良いと思います。そして、亜鉛は味覚とか肌荒れを頻繁にする人は亜鉛が少ない人が多い。若い方の7割が亜鉛欠乏しがち、あるいは低下している様に思われます。それと、鬱に関してはビタミン C、ビタミン D、亜鉛は効きます。できれば、鬱の方にはトリプルプロテクトは摂取してもらったほうが良いです。例えば、ブラジルの高校生に2週間ビタミン C を摂取してもらいました。その前と後で鬱に関しての不安とかに対する調査をしました。結果はどうだったかという、ビタミン C を摂取したことで明らかに鬱のスコアが下がっていました。何を言いたいかという、高校生ですから悩みや不安はあります。ビタミン C を摂ることで不安スコアが減り勉強に集中できるようになるので、成績にも影響するだろうなと思っています。ビタミン D も不安に対して非常に有効ですし、亜鉛やマグネシウムもそうです。この辺りは、不安のある人には是非勧めて欲しいと思います。鬱の人には薬を使う前にまずこれだよとお勧めください。

Q3 銅が足りなくなると体に対してどのような影響がでるのでしょうか？

A3 銅不足は、肝臓障害や皮膚に影響し易いです。銅の欠乏で疲労、貧血、白血球数の減少、鬱症状が起きます。

Q4 C、D、亜鉛、E、鉄などを摂ってはいるのですが、どうしても吐き気が出てしまうので、何か対処法はありますか？

A4 吐き気の原因の一つにカプセルが挙げられます。カプセルが合わない方が実はいるんです。そういう場合にはカプセルを外して、そのまま摂るか、ジュースなどに混ぜてたり、オブラートなどに包んで摂るという方法などもあります。

Q5 更年期にトリプルプロテクトの効果は期待できるのでしょうか？

A5 色々なホルモンに対して亜鉛はとても重要です。そして、ビタミン C は更年期の症状を緩やかにしてくれます。C、D、亜鉛はアンチエイジングの栄養素と言っても良いかと思います。更年期障害は単純なことでは無いのですが、トリプルプロテクトを摂ってみてまずはその変化を確かめてみてください。更年期障害には色々な薬がありますが、それは次の手段で、同時にやっていただきたいのは太陽に当たっていただく、十分な睡眠をとっていただく、そしてストレスも更年期障害には影響するから、そちらのケアをがっちりやった上で、トリプルプロテクトを摂ってみてください。お客様に勧めるときにこれを飲めば全部いいですよ、ではなく、そもそもが、ステイホームで家の中にいること自体がストレスを感じるし、ビタミンDが作られない。ステイホームは我々からしてみたら、コロナに対して真逆の対策をしているわけです。そして、運動をすることでストレスを減らし、体の代謝を上げていく。夜は睡眠を十分にとることで体を修復していく。そういう事をした上で、トリプルプロテクトを勧めると、より効果を感じていただけたらと思います。

Q6 子供がいますが、トリプルプロテクトを摂らせるには目安はどれくらいですか？

A6 幼稚園児や小学生1年生であれば、朝夕1カプセルで全然問題は無いです。大事なものは、是非その年代の子供たちは外で遊ばせることが大事だと思います。後は、マスクは色々な理由で正直取るべきだと思います。そもそも、幼稚園でもどこでも換気をよくしたら、先ずそれほどクラスターは起きません。で、感染してしまった時には十分な水分を与えて、十分に休ませてあげることだけで十分だと思います。トリプルプロテクトを与える場合、実はビタミン C は結構な量を摂っても平気です。飲めるのであれば、朝夕2錠ずつで、普通の食品として摂らせて構いません。リポ C との併用ですが、大人の場合はトリプルプロテクトとリポ C 1包。トリプルプロテクトはアスコルビン酸を採用しているので、吸収が速く急激に血中濃度が上がりやすいので効果が早く出やすいという特徴があり、リポ C とは血行動体が違っています。お子様の場合もトリプルプロテクトと一緒に摂っていただいて構いません。体重 20kg に対して 10g の比率でも問題ないと言われるアメリカの先生もいらっやいます。ただ、急激にビタミン C を摂ると下痢をするので、少しずつ慣らすという形で、トータル1日2~3g を飲ませてかまいません。